

商品名 オキシコドン内服液2.5mg「日本臓器」 医薬品基本情報

薬効	8119 その他のあへんアルカロイド系麻薬	一般名	オキシコドン塩酸塩水和物液
英名	Oxycodone Nippon-zoki	剤型	液
薬価	87.50	規格	2.5mg 2.5mL 1包
メーカー	日本臓器製薬	毒劇区分	(劇)(麻)

オキシコドン内服液2.5mg「日本臓器」の効能・効果

中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛

オキシコドン内服液2.5mg「日本臓器」の使用制限等

- 重篤な呼吸抑制、重篤な慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息発作中、慢性肺疾患に続発する心不全、痙攣状態、ストリキニーネ中毒、てんかん重積症、破傷風、麻痺性イレウス、急性アルコール中毒、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、出血性大腸炎、重篤な細菌性下痢、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内
- 細菌性下痢
- オピオイド鎮痛薬を使用していない
- 心機能障害、低血圧、呼吸機能障害、脳器質的障害、ショック状態、代謝性アシドーシス、甲状腺機能低下症、粘液水腫、アジソン病、副腎皮質機能低下症、薬物依存又はその既往、アルコール依存又はその既往、アルコールによる精神障害、薬物による精神障害、尿道狭窄、前立腺肥大による排尿障害、尿路手術術後、器質的幽門狭窄、最近消化管手術を行った、痙攣の既往、膵炎、胆石症、胆嚢障害、重篤な炎症性腸疾患、腎機能障害、肝機能障害

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	禁止
-------	----

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	原則禁止
-------	------

記載場所	用法・用量
------	-------

注意レベル	注意
-------	----

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	注意
-------	----

オキシコドン内服液2.5mg「日本臓器」の副作用等

- 退薬症候

記載場所	用法・用量
------	-------

頻度	頻度不明
----	------

2.	ショック、アナフィラキシー、顔面蒼白、血圧低下、呼吸困難、頻脈、全身発赤、血管浮腫、蕁麻疹、薬物依存、あくび、くしゃみ、流涙、発汗、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、譫妄、痙攣、振戦、全身筋肉痛、全身関節痛、呼吸促迫、動悸、退薬症候、息切れ、呼吸緩慢、不規則呼吸、呼吸異常、呼吸抑制、錯乱、無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫、麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸、著しいAST上昇、著しいALT上昇、著しいALP上昇、肝機能障害	記載場所	重大な副作用
		頻度	頻度不明
3.	譫妄	記載場所	重大な副作用
		頻度	5%未満
4.	眠気、傾眠、眩暈、便秘、嘔気、嘔吐	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
5.	過敏症、発疹、蕁麻疹、不整脈、血圧変動、起立性低血圧、失神、発汗、幻覚、意識障害、しびれ、筋れん縮、焦燥、不安、異夢、悪夢、興奮、視調節障害、縮瞳、神経過敏、感覚異常、痙攣、振戦、筋緊張亢進、健忘、抑うつ、感情不安定、多幸感、思考異常、構語障害、痛覚過敏、痛みが増悪、アロディニア、腹痛、おくび、鼓腸、味覚異常、嚥下障害、オッジ筋機能不全、悪寒、頭蓋内圧亢進、脱力感、胸部圧迫感、排尿障害、尿閉、脱水、無月経、性欲減退、勃起障害、浮腫、皮膚乾燥	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
6.	低血圧、頭痛、頭重感、不眠、下痢、食欲不振、胃不快感、口渇、そう痒感、発熱、倦怠感、血管拡張、顔面潮紅、熱感、呼吸困難	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
7.	脊髄刺激効果、薬物依存、便秘、嘔気、嘔吐、強い眠気、呼吸抑制、頭蓋内圧上昇、昏睡、巨大結腸症、催奇形作用、退薬症候、多動、神経過敏、不眠、振戦、意識不明、痙攣、錯乱、血圧低下、重篤な脱力感、重篤な眩暈、嗜眠、心拍数減少、不安、縮瞳、皮膚冷感	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

オキシコドン内服液2.5mg「日本臓器」の相互作用

1. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内			
発現事象	-	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止
2. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物			
発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	μオピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害	指示	禁止
3. 薬剤名等：中枢神経抑制剤			
発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与
4. 薬剤名等：吸入麻酔剤			
発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

5. 薬剤名等：MAO阻害剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

6. 薬剤名等：三環系抗うつ剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

7. 薬剤名等： β 遮断剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

8. 薬剤名等：アルコール

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

9. 薬剤名等：クマリン系抗凝血剤

発現事象	作用が増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	慎重投与

10. 薬剤名等：CYP3A4阻害作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4を介する本剤の代謝が阻害	指示	慎重投与

11. 薬剤名等：CYP3A4誘導作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が低下し作用が減弱、これらの薬剤の中止後に本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4を介する本剤の代謝が促進	指示	慎重投与

12. 薬剤名等：抗コリン作用を有する薬剤

発現事象	尿貯留、麻痺性イレウスに至る重篤な便秘	投与条件	-
理由・原因	相加的に抗コリン作用を増強	指示	注意

13. 薬剤名等：ブプレノルフィン

発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	ブプレノルフィン、ペンタゾシン等は本剤の作用する μ 受容体の部分アゴニスト	指示	注意

14. 薬剤名等：ペンタゾシン等

発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	ブプレノルフィン、ペンタゾシン等は本剤の作用する μ 受容体の部分アゴニスト	指示	注意



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.